

27J-am09

(-)-Aspidophytineの合成研究

○植田 浩史¹, 杉本 健士¹, 松本 幸爾², 福山 透², 徳山 英利^{1,2} (¹東北大院薬, ²東大院薬)

【目的】 Haplophytine (1) は 1950 年代に *Haplophyton cimcidium* の葉から単離された二核性アルカロイドであり、その酸性分解によりアスピドスペルマ骨格を有する 6 環性のアルカロイド aspidophytine (2) が得られている。その複雑な構造ゆえに 2 の合成は数例しかなく、1 に至っては未だ全合成の報告はない。そこで、我々は 1 の全合成への展開を視野に入れた 2 の効率的合成法の確立を行うこととした。

【方法・結果】 シクロヘキサノン (3) を出発物質として用い、光学活性なエノン化合物 4 を経て、三環性ケトン 5 へと導いた。続いて、5 に対し鍵反応である Fischer indole 合成反応を行なうことでインドレニン骨格 6 の構築を行い、その後種々変換を経ることで aspidophytine (2) の不斉合成に成功した。

